



下のQRコードより入っていただけます。
俵小ホームページ 俵小X (旧 Twitter)



全国学力・学習状況調査の結果から

本年度も4月に、「全国学力・学習状況調査」が実施され、本校6年生児童が調査に取り組みました。文部科学省より調査結果が送付されましたので、その概要ならびに分析結果をお伝えします。

なお、調査結果についてはすでに教職員で共有しており、2学期からの授業改善及び様々な教育活動に活用していきたいと考えております。

調査目的 ・全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握、分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。

・学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

調査概要 ・実施日 令和8年4月23日(木) ・調査対象 小学校6年生

・調査事項 児童：教科調査【国語、算数】/質問調査

・調査問題 学習指導要領で育成を目指す、知識及び技能や思考力、判断力、表現力等を問う問題を出题。「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善のメッセージを発信。



国語

① 全体的な傾向

平均正答数・平均正答率は、奈良県平均及び全国平均より高い値となりました。正答数分布については、正答数が11問から13問の上位層の割合が県・全国と比べて高いという傾向が見られました。学習指導要領に示された内容に照らすと、全ての領域において奈良県平均や全国平均よりも高い正答率を示しており、特に、思考力、判断力、表現力等の「A話すこと・聞くこと」と知識及び技能の「(2)情報の扱い方に関する事項」に関する事柄を問う問題については、その傾向が顕著に見られ、本校の特長と言えます。

無解答率については、「引用して書く」などの問題で高くなっており、今後の授業改善の課題と言えます。

② 解答状況から見た本校6年生児童の特長

・資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫することができる力をしっかりと身に付けている傾向がみられました。普段の学習の中でタブレット端末を積極的に活用し、動画を生かした表現活動をたくさん経験していることが、このような結果につながったと推察します。

・学年別漢字配当表に示された漢字を文の中で正しく使うことができる力を、概ね身に付けている傾向が見られました。当該学年や前の学年で配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うことが大切と考えます。この問題は、無解答率が県・全国に比べて高かったことより、文脈を理解して正しい漢字が書けるように、繰り返し練習する必要があると考えます。

・情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができる力を、しっかりと身に付けている傾向が見られました。情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うためには、図示などにより語句と語句との関係を表すことを通して、考えをより明確なものにしたり思考をまとめたりすることができることを理解することが重要です。引き続き、読むことの学習において、図などを使って考えを整理する授業を進めていきたいと思います。

③ 解答状況から見た本校6年生児童の課題

・考えとそれを支える理由や事例など情報と情報との関係について理解することができる力に課題のある傾向が見られました。考えとそれを支える理由や事例など情報と情報との関係について理解するためには、考えがどのような理由や事例によって支えられているのかを吟味することが重要です

・引用して、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる力に課題のある傾向が見られました。本文の一部を引用して書けたが、引用した部分と自分の考えとの関係を明確にし、区別して書くことができなかった児童もいたことより、引用部分の書き方を含め、考えと根拠を区別して表現することの確認を進めていきたいと思います。

算数

① 全体的な傾向

平均正答数・平均正答率は、奈良県平均及び全国平均より高い値となりました。正答数分布については、正答数が13問から16問の上位層の割合が県・全国と比べて高いという傾向が見られました。分布が上位層と下位層の両極に分かれる傾向が見られましたが、今年度は上位層や中間層が増えています。

学習指導要領に示された領域に照らすと、全ての領域において奈良県平均や全国平均よりも高い正答率を示しており、特に「A 数と計算」「B 図形」「D データの活用」ではその傾向が顕著に見られました。問題形式別の平均正答率は、選択式、短答式、記述式の全てにおいて県・全国を上回っています。特に、記述式の問題形式では県・全国と比べて正答率が高く、本校の児童は最後まであきらめずに粘り強く書いて答える姿がうかがえます。

② 解答状況から見た本校6年生児童の特長

・「B 図形」の領域で、直方体の箱の形を構成する面についてしっかり身に付けている傾向が見られました。

・「A 数と計算」「B 図形」「D データの活用」の領域で、日常生活の問題を解決するために、図形を構成する要素に着目して直方体の三つの辺の長さを捉え、示された条件を基に、調べたい数量の求め方を数や言葉を用いて記述できる力が概ね身に付けている傾向が見られました。日常生活の問題を解決するために、図形を構成する要素に着目して直方体の三つの辺の長さを捉え、示された条件を基に、調べたい数量の求め方を数や言葉を用いて記述する力が身に付いてきています。引き続き算数の授業で学んだことが、児童の日常生活で生かせるような授業の工夫に取り組んでいくことが大切と考えます。

・「A 数と計算」の領域で、異分母の分数の大小を判断し、その理由を数や言葉を用いて記述できる力を概ね身に付けている傾向が見られました。

・「A 数と計算」の領域で、単位分数の個数に着目し、数直線上の1を表す目盛りを捉えることができる力をしっかりと身に付けている傾向が見られました。

③ 解答状況から見た本校6年生児童の課題

・「C 変化と関係」の領域で、百分率で表された割合と比較量から、基準量を求めることができる力に課題のある傾向が見られました。

・「C 変化と関係」の領域で、基準量、比較量、割合の関係が正しく表されている図を選ぶことができる力に課題がある傾向が見られました。日常生活の様々な問題場面において事象を数理的に捉え、数量の関係に着目し、基準量、比較量、割合の関係や、異種の二つの量の割合として捉えられる数量の関係について考察することが重要です。そのために、例えば、図や式などを用いて基準量、比較量、割合の関係を読み取ったり表したりすることができるようにすることが大切であり、授業の中でこれらの学習を意識的に進めていけたらと考えます。

・「D データの活用」の領域で、二次元の表から、条件に合う数を読み取ることができる力に課題が見られました。日常生活の事象について、目的に応じて必要なデータを収集し、表やグラフに表し、それらを用いて問題を解決することが重要です。その為目的に応じて必要なデータを集めて分類整理し表やグラフに表したり読み取ったりできるような学習活動を大切にしていきたいと考えます。

児童質問紙

① 回答状況から見た本校6年生の特長

・質問番号(11)「人が困っているときは、進んで助けていますか」に対し、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した児童の割合の和は97.4%となりました。引き続き親和的な学級・学年づくりや異学年での交流を通して、進んで行動できる気持ちや勇気を育てていけるよう尽力したいと思います。

・質問番号(33)「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う」に対し、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した児童の割合は91.0%となりました。その中でも「当てはまる」と回答した児童の割合は、県平均や全国平均より高くなっています。引き続き委員会活動やボランティア活動等を積極的に進め、だれかの役に立ちたいという子どもたちの思いを大切に育てていけたらと思います。

・質問番号(35)「5年生までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか」に対し、79.3%の児童が「ほぼ毎日」と回答しています。特に、1日に複数の授業で活用しているという回答では、県平均より31.4ポイントも高くなっています。一部の教員だけでなく、全ての教員が授業で積極的にICT機器を活用した授業を進めていることが推察されます。

・質問番号(36-1)「あなたは自分がPCタブレットなどのICT機器で文章を作成することができると思いますか」では、「当てはまる」と回答した児童の割合は、62.3%で県平均より15ポイント、全国平均より12.8ポイント高くなっています。また質問番号(36-4)「あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器を使って学校での活動でプレゼンテーションを作成することができると思いますか」でも、「当てはまる」と回答した児童の割合は66.2%で、県平均より23.3ポイント、全国平均より21.3ポイント高くなっています。情報機器を積極的に活用した授業を展開していることで、児童自身が様々なスキルを身に付けて活用できているという実感をもっていることがうかがえます。「情報機器の活用」は、本校児童の大きな強みでもあります。

【次ページのグラフ参照】

・質問番号(48)「総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか」では、「当てはまる」と回答した児童が39.0%で、県平均より高くなっています。

総合的な学習の時間を中心に、ゲストティーチャーを積極的に招聘しながら、主体的対話的で深い学びを実現するための課題解決学習を積極的に進めた成果の表れと思われます。

これからも児童の興味・関心を高め、主体的に課題解決できる総合的な学習の時間の授業づくりに取り組みたいと思います。

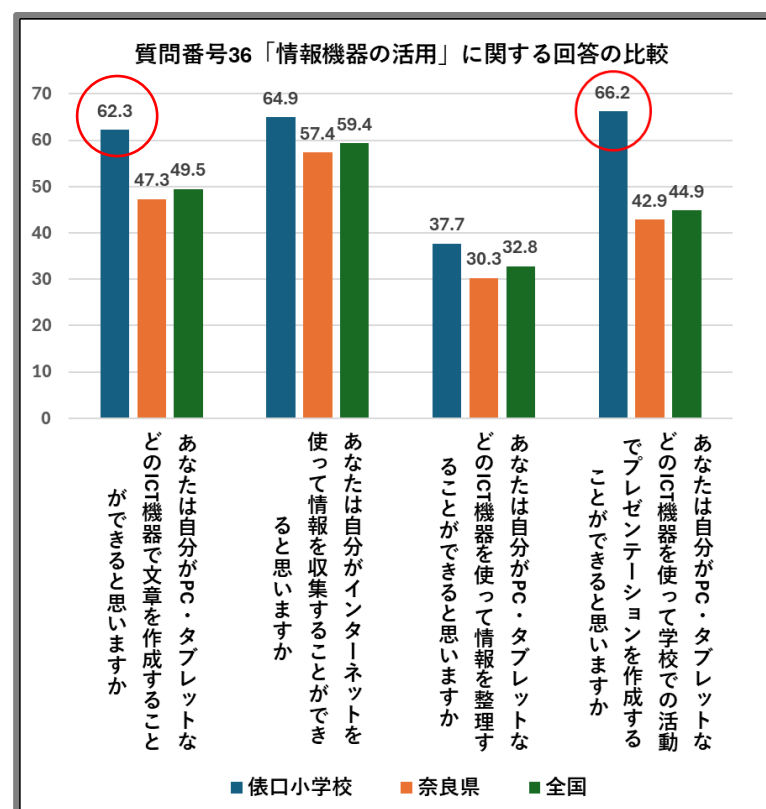
・「当てはまる」と回答した児

童の割合が、質問番号(54)「国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」では72.7%、質問番号(63)「算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」では81.8%で、県・全国平均に比べて高くなりました。これからも、普段の学習の中で、学んだことが児童の日常生活で生かせるような授業の工夫を進めていきたいと考えます。

② 回答状況から見た本校6年生児童の課題

・質問番号(3)「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」に対し、「どちらかといえば当てはまらない」「当てはまらない」と回答した児童の割合の和が14.3%となり、県・全国平均より高い値を示しました。改善されてきましたが、引き続き家庭とも連携して、規則正しい生活習慣が身に付けられるよう取り組んでいきたいと思います。

・質問番号(15)「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対し、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した児童の割合の和は、79.3%で、県平均や全国平均より



質問番号 36「情報機器の活用」

若干低い値を示しています。学校が楽しく思えない理由はどこにあるのかを分析していくとともに、児童が安心して学校生活が送れるような居場所づくりにも努めたいと考えます。

・質問番号(26)「学校の授業以外に、普段、1日当たりどれくらいの時間、読書を読みますか」では、「1時間以上」と回答した児童の割合が、県・全国平均より高い値を示しています。一方、「全くしない」と回答した児童もあり、読書をする児童としない児童の両極化が見られます。学校でも今年度から朝の読書を開始、学年文庫も設置して、児童の読書習慣を身に付ける取組や読書環境の充実に努めているところです。質問番号(29)「あなたの家には、およそどれくらいの本がありますか」の結果から、各家庭にある本の冊数は、県・全国平均に比べると高い水準にあることがわかっており、引き続き家庭と協力して読書活動を推進していきたいと考えます。

・質問番号(45)「先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて分かるまで教えてくれていると思いますか」では、「当てはまる」と回答した児童の割合が41.6%でした。また質問番号(43)「学習した内容について、分かった点や、よく分らなかった点を見直し次の学習につなげることができていますか」も、若干低い値となっています。児童自身が学習の振り返りをしっかり行うとともに、教員は、児童一人一人の学習内容の理解の見取りを確実にを行い、きめ細かい指導に生かしていくことを大切にしたいと思います。

・質問番号(4)「普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、スマートフォンや携帯電話、パソコン、タブレット、ゲーム機、テレビ等でSNSや動画視聴などをしますか」では「1～2時間」が一番多くなっています。SNSや動画視聴等の利用時間が長い児童ほど各教科の正答率・スコアが低い傾向が見られることより、注視していきたいと考えます。